

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：16101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K20856

研究課題名（和文）次世代の健康を育成する乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度の開発

研究課題名（英文）Development of Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children

研究代表者

多田 美由貴（TADA, Miyuki）

徳島大学・大学院医歯薬学研究部（医学域）・助教

研究者番号：50732004

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度：Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children（CLMIC）の開発およびその信頼性・妥当性を検証することを目的とする。CLMICは【地域の子育て情報の探索】【自分らしい子育てへの意思決定】【情報の信頼性の吟味】【納得に向けた疑問の追究】の4因子24項目で構成された。 $\alpha=0.934$ で信頼性が確認できた。探索的因子分析により構成概念妥当性を確認できた。CLMICは、日本人の母親に適した育児ならではの視点を大切にされた有用性の高い尺度であることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

CLMICは、ハイリスクではないが「どうすればよいかわからない」、「ちょっとしんどい」と感じている母親のスクリーニングが可能となる。事前に専門職が育児リテラシーを把握しておくことで、母親に合わせた支援内容を考えることができる。育児リテラシーが低い場合は高める支援も必要であり、高い場合はそれを強めと捉えて支援していくことも必要である。

CLMICを活用した保健指導は、母親の育児リテラシーの向上につながり、子どもの健やかな成長発達と子どもと母親の愛着形成促進につながることを考える。そして、産後うつや子ども虐待のリスクを減らし、次世代の健康づくりにつながることを期待できる。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to develop a Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children (CLMIC) and verify its reliability and validity. The CLMIC consisted of 24 items comprising four factors: Searching for local childrearing information, Decision-making for personalized childrearing, Examining the reliability of information, and Pursuing questions for convincing. The internal consistency reliability estimated using Cronbach's alpha coefficient for the total scale was 0.934. The validity of the CLMIC was logically secured using a confirmatory factor analysis. It was shown to be a useful scale that can contribute to health behaviors that protect against childrearing stress and promote child safety and security, valuing the unique perspective of childrearing that is appropriate for Japanese mothers.

研究分野：地域看護学

キーワード：ヘルスリテラシー 育児リテラシー 乳幼児 母親

1. 研究開始当初の背景

近年、少子高齢化における核家族化や人々のつながりの希薄化により、家庭や地域における相互扶助機能が低下している。従来、育児に関する情報は、主として親や友人等、身近な育児経験者から得ていた。しかし、現在はインターネットを利用したオンラインコミュニティによるつながりが広がってきており、時間や場所を問うことなく、いつでも最新の育児情報が得られるようになるなど、育児を取り巻く環境は変化してきている。

現代の育児情報のあり方は、情報を取得しやすい面もあるが、情報過多による混乱を招くという面がある。2017年には、誤った情報をもとに生後6ヶ月の児にはちみつ入りの離乳食を与えたことによる死亡事例も発生しており、誤った情報は子どもの健康を脅かす危険性がある。

そこで、健康や医療に関する情報を入手、理解、評価、活用して健康に結びつくよりよい意思決定ができる力であるヘルスリテラシーが健康を決める力として注目されている。本研究では、子どもの健やかな成長発達に資する健康や医療に関する情報および子どもと母親との愛着形成促進を重視した育児に焦点をあてた、育児に関するヘルスリテラシー（以下、育児リテラシー）に着目した。今後ますます情報化が進展し、また、新型コロナウイルス感染症をはじめ新たな感染症の出現により、オンライン支援が選択肢の1つとなってくる中で、母親の育児リテラシーを考慮した支援は必要不可欠であると考えられる。

しかし、現在、母親の育児リテラシーを評価する指標はない。乳幼児期の健康は生涯の健康基盤にもなることから、母親の育児リテラシーを適切に把握し、それを高めるための支援方法を検討するための評価指標の開発が必要であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度（CLMIC）の開発およびその信頼性・妥当性を検証することである。

3. 研究の方法

本研究は、以下の3つのプロセスを経て実施した。(1) 質的帰納的研究結果および既存文献をもとに CLMIC（原案）の作成、(2) 予備調査による CLMIC（本調査版）の作成、(3) 本調査による CLMIC の信頼性・妥当性の検討

4. 研究成果

(1) 質的帰納的研究結果および既存文献をもとに CLMIC（原案）の作成

乳幼児をもつ母親10人に対するインタビューデータを質的帰納的に分析した結果および既存文献をもとに、【子育て情報にアンテナを張る】、【複数の子育て情報源にアクセスする】、【子育て情報を理解する】、【子育て情報の信頼性を判断する】、【自分や子どもに必要な子育て情報であるか判断する】、【子育て情報を自分の子育てに取り入れる】の6因子50項目からなる CLMIC 原案を作成した。内容的妥当性の検討については、尺度開発研究者2人と地域および母性小児看護学分野の専門家3人による意見をもとに、質問項目の妥当性、質問文の明瞭性および、質問への答えやすさ等について検討した。

(2) 予備調査による CLMIC（本調査版）の作成

50項目からなる CLMIC 原案を用いて、A県の3市が実施する乳幼児健診等に来院した母親239人を対象に予備調査を実施した。57人を分析対象とし、項目分析、因子分析による構成概念妥当性の検討、信頼性係数の算出による内的整合性の検討を行った。4因子28項目からなる CLMIC（本調査版）を作成した。

(3) 本調査による CLMIC の信頼性・妥当性の検討

28項目からなる CLMIC（本調査版）を用いて、全国から無作為抽出し承諾の得られた7市が実施する乳幼児健診等に来院した母親を対象に本調査を実施した。211人を分析対象者とした。

対象者の平均年齢は35.4(SD4.9)歳、大学卒104人(49.3%)、子どもは2人が99人(46.9%)と最も多かった。項目分析、探索的因子分析(主因子法、プロマックス回転)、信頼性係数を算出した。結果、4因子24項目が抽出され、第1因子【地域の子育て情報の探索($\alpha=0.914$)】、第2因子【自分らしい子育てへの意思決定($\alpha=0.878$)】、第3因子【情報の信頼性の吟味($\alpha=0.863$)】、第4因子【納得に向けた疑問の追究($\alpha=0.945$)】と命名した。24項目全体における α 係数は0.934であり、構成概念妥当性、内的整合性が確認できた(表1)。

既存尺度(ヘルスリテラシー尺度:CCHL、性成熟期女性のヘルスリテラシー、育児ストレス尺度:PSI-SF、健康関連QOL尺度:SF-8)と10項目の健康行動を用いて、収束的妥当性および基準関連妥当性の検討を行った。CLMICとCCHLおよび性成熟期女性のヘルスリテラシーとの間に正の相関があり有意差を認めた。CLMICとPSI-SFとの間に負の相関、SF-8(MCS)との間に正の相関があり有意差を認めた。また、健康行動のうち、「乳幼児に必要な非常持ち出し袋の中身」についてのみ、知っている者は知らない者より総得点が高く有意な差があった(表2)。

表1 CLMICの因子相関

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子【地域の子育て情報の探索】(α=0.914)				
7 子育て情報を得るために自分の住んでいる地域の行政機関(役場、保健センターなど)を利用する	0.869	0.164	-0.200	-0.094
4 自分の住んでいる地域の子育て情報を発信している窓口を知る	0.822	-0.333	0.267	0.034
6 自分の住んでいる地域の行政機関(役場、保健センターなど)から配布される子育て情報に目を通す	0.814	0.065	-0.156	-0.034
5 自分の住んでいる地域の行政機関(役場、保健センターなど)から配布される子育て情報を受け取る	0.794	0.040	0.067	-0.099
3 自分の気になる子育て情報を見つけるための窓口を知る	0.784	-0.256	0.290	0.012
8 子育て情報を得るために子育て支援施設(子育て支援センター、保育園など)を利用する	0.680	0.132	-0.221	-0.018
9 自分の気になる子育て情報を見つけるためにさまざまな子育て情報源にアクセスする	0.592	0.100	0.076	-0.113
10 専門職(医師、保健師、助産師など)に相談に行く	0.573	0.063	-0.088	0.158
13 子育て支援施設(子育て支援センター、保育園など)が発信している子育て情報の内容を理解する	0.515	0.220	-0.035	0.164
12 行政機関(役場、保健センターなど)が発信している子育て情報の内容を理解する	0.509	0.073	0.083	0.217
第2因子【自分らしい子育てへの意思決定】(α=0.878)				
26 得た情報を自分の子育てに取り入れる	0.071	0.749	0.023	-0.020
28 得た情報をもとに、これからの子どもの成長発達を見据えた子育てをする	0.001	0.731	0.184	-0.097
25 マニュアルよりも子どもの成長発達に合わせた子育て情報を選択する	0.084	0.693	0.051	0.042
27 得た情報をもとに、これまでの自分の子育てを振り返る	0.077	0.661	0.020	0.017
23 子どもの前で笑顔でいられるような子育てにつながる情報を選択する	0.019	0.564	0.286	-0.010
24 マニュアルよりも普段から自分や子どものことをよく知ってくれている人のアドバイスをを選択する	-0.065	0.550	0.059	0.045
第3因子【情報の信頼性の吟味】(α=0.863)				
18 信頼できる子育て情報を発信している情報源であるか確認する	-0.001	-0.039	0.846	-0.004
19 すぐに鵜呑みにせず複数の情報源を利用して信頼できる子育て情報を見極める	-0.062	0.148	0.791	-0.131
20 信頼できる子育て情報であるという根拠を説明する	-0.073	0.070	0.737	0.027
21 祖父母世代や上の子どときと子育て方法が変わっていないか確認する	0.074	0.169	0.501	-0.047
22 自分の子育て観を大切に納得できる子育て情報を選択する	-0.103	0.310	0.494	0.126
17 子育て情報にはそのときどきの流行があることを理解する	0.013	0.160	0.413	0.119
第4因子【納得に向けた疑問の追究】(α=0.945)				
14 専門職(医師、保健師、助産師など)からの説明やアドバイスでわからないことはそのままにせず質問する	-0.014	-0.058	0.026	0.972
15 専門職(医師、保健師、助産師など)以外の者からの説明やアドバイスでわからないことはそのままにせず質問する	-0.010	0.075	-0.061	0.932
主因子法, プロマックス回転 KMO=0.878, Cronbach's α=0.934 CLMIC=Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children				

表2 CLMICの妥当性の検証

(a)	CLMIC総得点	【地域の子育て情報の探索】	【自分らしい子育てへの意思決定】	【情報の信頼性の吟味】	【納得に向けた疑問の追究】
CCHL	.552**	.375**	.538**	.559**	.411**
性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度	.436**	.304**	.412**	.490**	.403**
PSI-SF	-.530**	-.411**	-.517**	-.439**	-.399**
SF-8 (PCS)	.136*	.136*	.137*	.102	.076
SF-8 (MCS)	.366**	.262**	.362**	.302**	.345**
(b)	mean(SD)				
乳幼児に必要な非常持ち出し袋の中身					
知っている (n=109)	94.5(14.3)	38.7(7.6)	24.1(4.2)	23.6(4.6)	8.1(1.8)
知らない (n=102)	88.8(14.2)	36.5(7.7)	23.0(4.0)	21.8(3.8)	7.5(1.8)

(a) Spearmanの順位相関分析 ** p<0.01, * p<0.05

(b) マン・ホイットニーのU検定 ** p<0.01, * p<0.05

CCHL=Communicative and Critical Health Literacy, PSI-SF=Japanese version Parenting Stress Index Short Form, SF-8=Japanese version Short-Form-8-Item Health Survey: PCS(physical component score), MCS(mental component score), CLMIC=Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children

本尺度は、乳幼児をもつ母親の育児リテラシーを測定できる初めての尺度である。本尺度は、日本人の母親に適した育児ならではの視点を大切に、育児ストレスや子どもの安心安全を守る健康行動に貢献できる有用性の高い尺度であることが示された。

産後うつや子ども虐待など、ハイリスクではないが、「どうすればよいかわからない」、「ちょっとしんどい」と感じている母親は多くいると考える。本尺度は、全戸訪問時や乳幼児健康診査の場を通して、そのような母親をスクリーニングできる。事前に専門職が母親の育児リテラシーを把握しておくことで、個々の母親の育児リテラシーに合わせた支援内容を考えることができる。育児リテラシーが低い場合には高める支援も必要であり、高い場合にはそれを強みと捉えて支援していくことも必要である。今回、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたが、今後は、育児リテラシーが良好であるか否かのカットオフ値を理論的根拠に基づき設定し、本尺度を活用した保健指導の介入方法の開発につなげたい。また、母親だけでなく、父親を含めた乳幼児を養育する保護者へと対象を広げ、さらに、各国の文化的背景も捉えながら、日本だけでなく、海外における母子保健分野においても活用できる育児リテラシー尺度へと発展させていきたいと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 多田美由貴、岡久玲子、岩本里織、松下 恭子	4. 巻 24
2. 論文標題 乳幼児をもつ母親の育児に関するヘルスリテラシーの明確化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 13~22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20746/jachn.24.3_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 多田 美由貴、岩本 里織、岡久 玲子、松下 恭子	4. 巻 16
2. 論文標題 母親のヘルスリテラシーを測定している尺度と関連要因に関する文献検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Nursing Investigation	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32273/jni.16.1-2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 多田美由貴、岡久玲子	4. 巻 70
2. 論文標題 Development of Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of Medical Investigation	6. 最初と最後の頁 171-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2152/jmi.70.171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 多田美由貴
2. 発表標題 Preliminary survey to develop a childcare-related health literacy measurement scale for mothers with infants
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会（6th International Conference Global Network of Public Health Nursing 2022合同開催）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 多田美由貴
2. 発表標題 乳幼児をもつ母親の育児に関するヘルスリテラシー
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 多田美由貴、岩本里織、岡久玲子、松下恭子
2. 発表標題 保健師が捉える乳幼児をもつ母親の育児に関するヘルスリテラシー
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 多田美由貴、岡久玲子、岩本里織、松下恭子
2. 発表標題 乳幼児をもつ母親による子育て情報の信頼性の判断方法
3. 学会等名 第6回日本公衆性看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 多田美由貴、岡久玲子、松下恭子、岩本里織
2. 発表標題 子育て相談で医療者の説明に対する疑問への対応方法
3. 学会等名 平成29年度四国公衆衛生研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------